

平成28年度第1回那珂市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成28年10月24日(月)
午前10時00分～午前11時25分
- 2 場 所 那珂市役所5階503・504会議室
- 3 出席者
- | | | | | |
|-------|------|--------|-------|-------|
| (構成員) | 市長 | 海野 徹 | 教育委員長 | 佐藤 哲夫 |
| | 教育委員 | 中澤 明 | 教育委員 | 住谷 光一 |
| | 教育委員 | 小笠原 聖華 | 教育長 | 秋山 和衛 |

(事務局) 【総務部 総務課】

総務部次長兼総務課長 川田 俊昭
課長補佐(総括) 渡辺 莊一
課長補佐(総務グループ長) 石井 宇史
総務グループ主幹 齋藤 哲生

【教育委員会教育部 学校教育課 指導室】

教育部長 会沢 直
教育部次長兼学校教育課長 高橋 秀貴
課長補佐(総括) 渡邊 勝巳
課長補佐(総務・再編グループ長) 田口 裕二
総務・再編グループ係長 直江 正典
副参事兼指導室長 大高 伸一
指導主事 富山 敦子
瓜連中学校教諭 中村 智美

【教育委員会教育部 生涯学習課】

生涯学習課長 根本 実
課長補佐(総括) 小林 正博
社会教育主事 海老根 健治

4 会議次第

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 那珂市教育大綱の進捗状況について
 - (2) その他
- 4 連絡事項
- 5 閉 会

5 内 容

川田総務課長： 定刻となりましたので、ただいまから平成28年度第1回那珂市総合教育会議を開催いたします。

始めに、海野市長からあいさつをお願いいたします。

海野市長： 改めましておはようございます。本日は佐藤委員長をはじめ教育委員の皆様方におかれましては、ご多忙の中平成28年度第1回の那珂市総合教育会議に、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。また、平素から子どもたちの教育の充実発展にご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、昨年度この総合教育会議が設置され、3回の協議を重ね、平成28年1月に那珂市教育大綱が策定されました。

今回の教育会議においては、大綱が策定されてから9か月が経過したことから、現在の進捗状況を確認し、委員の皆様と意見交換を行い、今後の進め方などを確認できたと考えております。

よろしくをお願いいたします。

川田総務課長： ここからは那珂市総合教育会議設置要綱第4条第1項に基づき、市長が議長となり会議を進めていくこととなります。

それでは、市長よろしくをお願いいたします。

海野市長： それでは要綱に基づきまして、議長を務めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

海野市長： それではこれより協議事項に入ります。

次第3協議事項の(1)にございます「那珂市教育大綱の進捗状況について」を議題といたします。事務局より大綱の進捗状況について説明願います。

高橋学校教育課長： 学校教育課長の高橋でございます。教育大綱の進捗状況について主なものをご説明いたします。お手元の那珂市教育大綱の3ページ、大綱の基本施策に基づいて進捗状況について説明させていただきます。

基本施策は施策1から施策5までになっていますが、まず施策1から学校教育課より説明させていただきます。

施策1については、「個性と創造性を育む学校教育の充実を図る」幼稚園教育・学校教育を示したものです。平成28年度の障がい児学習指導員や生活指導員の配置につきましては、配置の必要な学校で十分な協議を行い、学習や生活の指導が必要な園児・児童生徒に配置することとしております。本年10月現在の配置状況です

が、学習指導員は小学校に7人、中学校に2人、生活指導員は小学校に9人、幼稚園に8人となっております。この事業につきましては、支援を必要とする児童生徒たちが増加傾向にあるので、今後更に必要性が高まるものと思っております。

次に、英語教育でございます。急速なグローバル化社会に対応していける児童生徒を育成するために、外国語指導助手であるALT（外国指導助手）を配置し、担任との2人体制で英語授業を進めております。実際に、小学生からALTと触れ合うことは、コミュニケーション能力の向上に有効なものと考えております。

また、今年度は、教職員の英語授業のスキルアップのため、茨城県が主催するハワイ大学マノア校に英語研修へ教職員を派遣しております。小中一貫教育では、小学校の高学年で、教科担任制を実施するために、昨年度から非常勤講師の配置をしております。小学生を対象としたアンケートでは、教科担任制の授業は、非常にわかりやすいというご意見を多くいただいております。教育支援センターでは、ひまわり教室での児童の学校復帰に向けた教育活動や不登校などの児童生徒への相談業務を継続しております。また、中学校に心の教室相談員を配置し、生徒が悩みを一人で抱え込まずに相談できる場所を設け、いじめ問題の早期発見に繋がる支援体制を取っております。

また、幼児教育では幼稚園と小学校との交流を実施し、小学校を体験することがスムーズな就学に繋がることから、幼稚園ごとに小学生との交流活動を行っているところです。

簡単ではございますが、施策1の進捗状況につきましては以上となります。

根本生涯学習課長： 施策2についてご説明申し上げます。施策2ですが、「生涯にわたり学ぶことができる環境の充実を図る」ということでございます。中央公民館では、学級講座開設授業を14講座248名が受講しております。また、「公民館まつり」を11月25日から27日まで開催予定としております。さらに、まちづくり委員会の要望もありまして、12月16日に生涯学習の推進についての講話を聞いた後、認知症の予防として手作りハンドクリーム作りの体験を行います。市立図書館では、11月5日から6日に「図書館まつり」を開催します。お話し会や朗読会、講演会を行います。特に講演会は開館10周年ということから、80歳を超えてもなお、執筆活動を継続し、毎月1冊というハイペースで作品を生み出す有名作家童門冬二様を講師に迎え、講演会を開催します。芸術文化としては文化協会の事業として8月9日から18日まで、友好都市の横手市出身の漫画家、釣りキチ三平でお馴染みの矢口

高雄さんの作品を展示する「矢口高雄漫画展」を開催しまして、767名の入場者がありました。また、文化祭を10月28日から30日の3日間開催いたします。あわせて、市内の保育園、幼稚園、小中学生の美術展覧会を常時開催します。

続きまして、施策3「生涯にわたりスポーツに親しめる環境の充実を図る」ということですが、那珂総合公園を活用して各種スポーツ教室を開催しております。既に前期は終了しており、水泳教室は26教室を開設し、760名定員に対しまして、620名受講しました。スポーツ教室は5教室開設し、210名定員に対し122名が受講しました。後期につきましては、9月4日に水泳教室、9月11日にスポーツ教室の受付、抽選を実施し、水泳教室は24教室587名の申込みがあり、スポーツ教室は4教室77名の申込みがありました。

続きまして、施策4「未来を担う青少年の健全育成を図る」ということですが、青少年育成那珂市民会議では青少年健全育成のための施策を展開しております。特に取り組みの一環として、10月1日に「青少年の主張発表大会」をらぼーるで開催しました。市内各中学校で応募総数672名の中から代表生徒10名及び水戸農業高等学校、那珂高等学校の代表生徒1名ずつ、消防本部から2名、計14名が発表しました。また、11月19日には中央公民館において水戸生涯学習センターとの共催による「親が変われば子どもも変わる運動 那珂市推進大会」を開催いたします。5名による体験発表と子育てに関わる講演をとおしまして、親と子どもの関わり方や親がどう変われば子どもが更によく育つか等の子育てについて考えるきっかけにするため実施いたします。12月10日には、子どもの目を通して思ったことや感じたことを言葉や絵に表現する機会と場を与え、子どもたちに家庭の一員としての自覚と責任を意識づけるために「家庭の日 図画作文発表会」を開催します。家庭教育学級では、幼稚園、保育所、小中学校で年5回程度、20学級でそれぞれ学習しておりますが、更に親の教育力を高めるため年3回合同学習会を開催します。6月18日に第1回合同学習会を開催しました。11月19日に第2回、12月15日に第3回合同学習会を開催します。また、市内在住小学4年生から6年生を対象に「小学生ふるさと教室」を3教室開設し、113名が受講しております。小学3、4年生を対象に「なかっこ・キッズクラブ」を開設、夏休み期間中に4回実施し、13名が受講しました。小学1、2年生を対象に「のびのび親子教室」を開設する予定となっております。11月5日に中央公民館で受付を行う予定となっております。

続きまして、施策5「貴重な歴史資産と伝統文化を継承し活用を図る」でございます。歴史民俗資料館の季節展に関しては、4月2

3日から5月8日まで「端午の節句展」を開催し、978人の来館者がありました。平成29年1月5日から9日まで「正月飾り展」を、1月28日から3月5日まで「雛人形展」を開催する予定となっております。特別企画展については、7月23日から9月4日まで「東日本大震災の記憶」を開催し、2,385人の来館者がありました。11月3日から12月11日まで「戦国大名佐竹氏の軌跡」を開催いたします。また、市内小学3年生が歴史の授業として、資料館で昔の道具を学ぶこととなっております。歴史編纂に関しては、平成27年3月に「那珂市の先人たち」を刊行し、134冊販売しました。平成28年3月には「戦後70年戦争の記憶」を刊行しました。以上です。

海野市長： ただいま説明がありました。私の公約でもある大綱施策1の英語教育の状況について、もう少し詳しく聞きたいですので、説明をお願いします。

大高室長： それでは英語教育について説明させていただきます。英語教育の充実を図り、英語を活用とする子を育てていくことは、これからグローバル化に対応する子どもたちにとっては大事なことと思っております。教職員の指導力の向上と英語力のある子どもを育てるということで、英語教育のリーダー研修会、ハワイ大学への派遣という海外研修を行った瓜連中学校の中村智美教諭からその研修についての報告、さらには富山指導主事よりこれからの英語教育の進め方についてご説明させていただきます。よろしくをお願いします。

富山主事： よろしくをお願いします。お手元にある資料「那珂市の英語教育について（案）」のレジюмеに従ってご説明させていただきます。本日は3つの視点で説明させていただきます。「新しい英語教育の方向性」、「ハワイ大学で学んだこと」、「英語力の向上に資する具体的な取組」ということでお話しさせていただきます。

まず1点目ですが、文科省の方では「他国の人の前で物怖じせずに自己表現をできる子どもを育成する」と掲げられ、茨城教育プランには平成32年度には英検3級相当以上を60%以上と掲げられております。3、4年生は今後活動型ということで年間35時間の外国語活動型の授業、5、6年生は教科型ということで年間70時間、週2時間の英語の授業ということになります。

ここからは「ハワイ大学で学んだこと」という題で中村教諭から今後那珂市の英語教育に活かせるという視点でご説明させていただきます。

中村主事： よろしくお願ひします。平成27、28年度の英語教諭未来育成事業の一環でハワイ大学へ2週間研修を行って参りました。ハワイ大学とは第二言語の習得理論に大変評価のあるアメリカの大学です。また、大学での授業だけではなくラボラトリー・スクールという学校も視察を行ってきました。一人一台ずつのパソコンと少人数教育、生徒と教師との対話を基にした授業がとても印象的な学校でした。

たくさんある理論の中で、はじめに、モチベーションに対する理論を学んできました。実際に私たちも授業を体験しましたが、教授と生徒同士のコミュニケーションや対話を中心にした授業を展開する中で、心地よいリラックスした雰囲気がとても大切であると体感しました。

次に、教育法についてです。先ほど述べましたように教授と生徒同士の対話を中心とした意見を出し合うような形態の授業、つまり学習者が中心の授業、そして共同的な学び、あるいは自分で考えて表現する力、タスクの力を高めるための学習、ドリル学習を重ねた上での知識を基にコミュニケーションに活かすということを学んできました。

次に、「意味のある言語学習」の理論です。一つは、実際の生活の中で必要なリアルな対話を習得するための手法。あるいは、教科書の文などでも名前やシチュエーションを変えることで、個人化されるということの重要性。あるいは生徒がやってみたい、書いてみたいと思えるようなものを自分で選んで授業を進めていく、意欲を持って進めていくための生徒が選ぶ場を設けるための手法について学んできました。

次に、「グループ学習の良さ」についてです。私たちも実際に講義を受けてきましたが、ただ聞くだけでなく、色々な活動や話したり聞いたりする機会もとても多く、すぐ覚えられるなどの達成感の大きさを感じました。また、2、3人での学びあいの活動の場がたくさんあり、間違いを恐れずに話したり聞いたりすることが学ぶ中でとても重要な要素であると感じました。

次に、「若い学習者にゲームを活用」についてです。実際にすごろくゲーム、ボードゲームなどを体験しましたが、ルールやガイドラインがあると安心して取り組むことができ、導入や定着のためにとても有効だと感じました。次に、ゲームでの利点ですが、一つとしてはグループやペアで行うことで共同して学び、安心してリラックスして学ぶことができる。そして、それを基に2、3人のグループで行うことで、自信を持って英語学習に取り組むことができることが分かりました。

次に、「書くことへのアプローチ」です。間違いを指摘するだけの指導だけでなく、自分の考えや意見を自由に表現する。そして、

それを共有して称賛できる場を設けることで、書く意欲が高まるということを感じました。

最後に、「リーダーズ・シアター」ですが、私たちも実際に「リーダーズ・シアター」を体験しました。一言でいうと、音読による劇ですが、役になりきって表現力をつけることができました。特に英語学習が苦手だと感じている生徒には話すことや読むことに抵抗がなく自信をつけることができると感じました。以上です。

※ラボラトリー・スクール

教育方法の研究を行う大学の付属学校。

富山主事： 続きまして、3点目は那珂市における「英語力の向上に資する具体的な取組」ということでいくつかご提案させていただきます。

具体的な5つの取組みということで、中村先生からの発表にありました理論を活かした5つのことを提案させていただきます。今から読む資料ですが、「ハワイ大学で学んだ理論を活かして」ということで、星印で書いてあるところは那珂市で取り組んでいきたいこと、花のマークがあるところは理論的な位置づけだと捉えて見ていただければと思います。

1点目です。「授業の質の向上」ということです。まず小学校ですが、ハワイ大学の理論を活かした授業公開して、今週中村先生が横堀小で授業公開をしてくださいます。それを基に協議を行うことで、今後の授業に活かせると考えております。また、話す聞く活動だけでなく、読む書く指導も入れていかなければなりません。ここについて教職員5人で話し合いをして資料作りをしているところです。教職員研修ですが、現在も行われておりますが、効果的なTT（チームティーチング）ができるように、今後も夏休み等で研修をしていこうと考えております。理論的な裏付けは以下のとおりです。中学校においても来月中村先生が瓜連中学校で授業公開をしますので、協議等をしまして今後の授業力の向上に役立てたいと考えております。

2点目です。「英語に触れる機会を増やす」ということで、小学校ではALTの先生に様々な授業へTTとして参加していただくことを考えております。子どもたちと触れ合う時間を確保し、運動会等の行事にも参加していただくことで、リアルな会話が学べるのではないかと考えております。中学校についても同じです。昼休みはできるだけ生徒たちに触れ合ってもらおうと考えています。現在でも体育祭等へは参加していただいておりますが、準備の段階からできるだけ積極的に参加してもらおうと考えています。

3点目です。仮称ですが「英語イマージョン・スクール」という

ものを考えております。例えば、希望する児童生徒を対象に、夏休みはらぼーるに集まったのサマープログラム、冬休み等もクリスマス体験ということも考えられております。サマープログラムについては検討中ですが、ALTの先生と一緒に料理を作ること等からリアルな会話を学べるのではないかと考えております。クリスマス体験についても同じです。パーティーで終わらせるだけでなく、その文化的背景等についても学べるのではないかと考えております。行事体験等についても同じです。安心して活動できたり話したり聞いたりする機会が増えると考えています。

4点目です。「イングリッシュルーム」ですが、中学校の空き教室等を利用して、ALTの部屋にあたる部屋を設けていただければと考えております。英会話教室のように、そこに行けばALTの先生と常に話ができということで、中学校の生徒さんたちに一人でも多く活用してもらえるとありがたいと思っています。また、そういう部屋ができれば、イングリッシュコーナー等の充実も考えられます。

最後の5点目です。「英語検定試験対策講座の開設」ですが、既にやっている学校もありますが、特に英検3級、準2級には会話のテストがありますので、2次試験の対策のためにALTの先生に活躍してもらいたいと考えております。

以上、那珂市の英語教育についてご説明させていただきました。ご清聴ありがとうございました。

大高室長： いま説明がありましたけれど、中村教諭につきましては今年と来年に小学校1校、中学校1校を会場に、啓発のための公開授業を進めていきます。学校の先生方の指導力の向上、子どもたちが英語に触れる環境を作っていくということで計画を作っています。以上です。

海野市長： はい、ありがとうございます。子どもたちとALTが触れ合うことはとてもいいことだと思います。3年、4年、5年、6年生という形ですけど、1年生あたりから触れ合う機会があればいいなと思いました。

皆さんの方で何かありますか。

佐藤委員： いまの発表を聞いて、那珂市の英語教育にとって中村先生の存在が大きいなと感じました。これまで私たちも那須塩原に行って研修を行い、他の地区では様々なやり方をされていることが分かりましたが、中村先生のような専門的な方がいらっしゃると、プレッシャーになるかと思いますが、楽しんでやってください。

いま発表を聞かせていただいて、今週中に授業公開があるということですが、参加者は小中学校からどうなっていますか。

富山主事： 那珂市から各校1名ずつ、最低1名ずつ、東海、大宮、大子からも来るので計45名が参加することになっております。

佐藤委員： そういう形式を各学校で行うと。各学校では必ずしも公開を行うわけではないのですか。

富山主事： 那珂市で公開するところは横堀小学校だけです。

佐藤委員： イングリッシュルームはなぜ今まで考えられてなかったのか。ALTさんがいらっしゃるのが職員室とか特定の部屋だと子どもたちと触れ合うことは確かに無かったです。ただ、色々配慮することが出てくると思います。子どもたちが出入りするということにおいて、こういう場ができることは非常に良いことだなと思いました。以上です。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 昨年教育委員会で那須塩原に研修に行き、かなり英語教育が先進的で大胆な改革をしているのを見てきましたが、英語教育はあくまで日本の文化を理解して子どもたちに教えることだと思います。私たちが日本の文化を理解しているとは言えないですけど、ちょっとしたものの説明や行事の説明などでも私の経験では、とんちんかんな説明が多くて、本当に説明していることにはならないということがよくあります。例えば、慈光院という奈良のお寺に行ったことがあります。お茶をいただいたのですが、そこに日本の通訳さんが外国人を十数名連れてきて、びっくりしたことに飾り棚に通訳さんが座ったのです。れっきとした日本人です。これはびっくりしまして、本当に日本を説明できるのかと強烈な印象を受けました。そういう強烈な印象を持ちましたので、私も学校の教員をやっております。その辺りの理解が不足している気がするので、未熟な先生が未熟な子どもを教えることはとんでもない誤解を生じますので、その辺も伸ばしながらお気遣いいただければと思います。那須塩原でもそのことを質問しましたら、さすがに那須塩原では自分たちの歴史や文化を中心に教えますというスタンスでやられていたので、なるほどと感心しました。意見としてそのようなことを申し上げときます。

中澤委員： いま佐藤委員さん、住谷委員さんも仰ってましたけど、那須塩原の研修は私にとっても強烈なインパクトがありました。各学校にALTがおりまして、職員室ではなくALTさんがいるという部屋があるので、子どもたちとの触れ合いがそこにあるのかなと思いました。最終的には中学3年生が修学旅行に行った場合に、外国の方と触れ合おうとするときに、英語で自分たちの住む街の良いところを説明しようということをやっているとお聞きしました。最終的には、身近に外国の方と接して英語で触れ合うこと、話すことを最終的な目的としていて非常に良かったかなと思いました。是非、那珂市でもALTの常駐を小中学校でできればベストかなと思いました。

海野市長： 他にございますか。

小笠原委員： どうしてここまで英語を使うことを重要にしてきたかという、苦手意識を持った大人がとても多いことからかなと思っています。特に私たちの年代では読み書きが主で、なかなかスピーキングやコミュニケーションを図るという意識に向かなくて、それに対する苦手意識を持っている人が凄く多いです。親世代が危機感を持って、学校に対してもアプローチを起すようになりました。どうして英語の好き嫌いが段々分かれてくるという一つに、中学校に入り、英語が分からなくてつまらないと思うことが凄く大きな要素だと思いました。中村先生の授業を授業参観で何度か拝見したことがあります、凄くテンポが良くて楽しいです。英語が話せることが大事ではなくて、英語を手段として使いこなせることが良いのだと子どもたちが色々な機会を通じて分かって、手段を最大限に活用できるようになり、こういう授業を受けていればこうなるのだろうと凄く感じました。

やっぱりある一定以上の大人は話す筋肉が衰えていて、英語を話すという筋肉を鍛え直せとよく言われますけど、それをいまの子どもたちが滑らかに筋肉を鍛えてもらって、将来的に手段として日本文化を正確に海外に発信していくという重要なツールとして使いこなしてくれることが那珂市で率先して行われると凄く喜びを感じます。

那須塩原でも英語はあくまでも手段であると強調していて、いかにそれを使っていくかを重要視しているというお話がありました。那珂市でも日本の文化や日本語について基本的理解は最低限した上での英語が使える喜びを感じてほしいと思っています。せっかくICT（情報通信技術）が導入されることで、イングリッシュルーム以外でもインターネットを活用して海外の人と交流できる

よくなると思いますので、こういうことも使っていただいて英語教育が充実していけば良いと思います。

海野市長： 色々なご意見ありがとうございました。それでは、今後も英語教育が充実できるよう、子どもたちへの英語教育を進めていくだけでなく、教職員のスキルアップも図っていくようお願いします。

つづきまして、同じく施策1にあります幼稚園教育の状況について、詳しく説明をお願いします。

大高室長： 施策1にあります幼児教育についてですが、教育に関することで述べさせていただきます。現在、幼稚園・保育園の年長さん、小学校の低学年、これらの年齢を幼児期教育という括りにして、幼児教育接続を目指して、指導室で研修を進めているところでございます。実際に夏休み中、私立幼稚園、保育園、公立幼稚園、小学校の代表の方に集まっていただき、それぞれの児童・園児の教育について一緒に課題や方向性について議論を重ねました。今年度の研修としては、校長・園長研修として年1回、さらに幼稚園・保育園から小学校に入ってからの教育ということで「アプローチカリキュラム」と「スタートカリキュラム」の2つをそれぞれ作って、子どもたちがスムーズに学校教育に入っていけるように研修を進めているところです。今年度は3回、それぞれの教務主任クラスの先生方を集めて研修を進めています。

また、就学指導につきましては、指導室でそれぞれの幼稚園・保育園にお邪魔させていただきまして、子どもたちのスムーズな就学に向けての相談についても関わっております。また、幼稚園・保育園の要請によって、保護者対象の小学校教育に関する説明会等でお邪魔させていただいております。このように、接続について広めていくことができればと思っています。以上です。

海野市長： ただいま説明をいただいたのですが、皆さんから何かありますか。

小笠原委員： 室長からありましたアプローチ・スタートカリキュラムですが、公立の幼稚園・保育園だけでなく、民間の幼稚園・保育園に対象を広げていただいて、幼児期教育でどの施設に行っているかを問わない、総合的な目で那珂市の子どもたちを育てていくことが全体的に感じられて非常に良いことだと思います。たぶん何の心配もない子どもたちはそれを基に順調な幼小や小中への接続が図られると思いますが、配慮が必要な子どもたちが最近とても多く、配慮が多種多様に及んでおります。教育支援センターについても市の方で配慮していただいて、今後は支援や配慮が必要な子ども

たちについても幼児期から小学校への接続を上手く図られれば素晴らしいなと思っています。那珂市は他市町村からも定評があるので、教育支援センターにも繋げていただければと思います。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 幼稚園・保育所に入ってから教育も大事ですが、若いお母さん方の意識、子どもたちをどう育てていくかという取り組みについて、市の方ではどうなっているのか。これから色々な問題がありますので、そういうところも含めて説明をお願いします。

高橋学校教育課長： 就園前のお子さんについての相談ですが、そちらについては現実的にはこども課が主管になりますが、就園前のお子さんについてはフレンドリー保育ということで、幼稚園に入るための保護者への説明や子どもたちへ接し方についての教室を行っています。その際に既存の幼稚園に入ることで、これから幼稚園に入る子どもたちが幼稚園を体験できるような教室を実施しております。

また、支援が必要なお子さんについてお話がありましたが、市の方では発達相談については3年前に発達相談センターを設置しまして、支援又は保護者やお子様に必要なご家庭には支援体制を確立しております。相談センターについては毎年200件程度相談がございます。子育て支援センターの方では0歳児、1歳児のお母さんということで、各年代向けにお子様の成長を見ながら保護者が安心して子育てができるような体制を実施しております。以上です。

住谷委員： ありがとうございます。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： この前、芳野幼稚園の運動会に行きまして。後藤園長先生と話してびっくりしたことがありました。いきなり国旗掲揚がありまして、これは初めての経験でした。後藤園長先生が言うには、連携を図るなら幼稚園でも小学校と同じことをできることから取り入れていく必要があるというお答えでした。そういう問題について現場の方々同士が色々情報交換をされたら良いかなと思いましたので、一言申し上げます。

海野市長： ありがとうございます。他にはございますか。

(なし)

色々なご意見ありがとうございました。

幼児教育への多様化や市においても幼稚園の再編計画が進められることから、小学校との関わりもこれまでより多様化が求められるかとも思われますので、今後とも幼稚園、小学校の連携強化に努めていただくようお願いします。

続きまして、施策4にある青少年の健全育成という部分に当たるとは思うのですが、社会情勢の変化や多様化、また、地震や台風などの災害が多発化する現在において、社会貢献ができる人間を育てて生きたい、また、育ててもらいたいと思っています。

社会に貢献できる人間とは、就学すること、結婚すること、子どもを育てることのような当たり前のこともですが、後藤新平という人が「自治三訣」を唱えております。ボーイスカウトのときに訓示した内容なのですが、「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして報いを求めぬよう」というものがありまして、そういうことを実践できる子どもに育てばなと思っています。

このように思うところですが、事務局の方で関連している事業について説明願います。

根本生涯学習課長： 社会貢献ができる人間の育成ということですが、今年8月6日から7日にかけて白鳥学園において地域と学校の連携による防災教育・防災体験アカデミーを実施しました。1日目は避難所設営体験として児童生徒が仲間と協力してテント設営、夕食として塩むすびを作りました。夜は自分たちが設営したテントに泊まりました。2日目は水難救助体験として服を着たまま泳ぐ着衣泳を行い、心肺蘇生法とAEDを使用しての救命救急を実施しました。小学生21名、中学生10名、協力者としてまちづくり委員会等から40名、合計71名が参加しました。参加者アンケートの結果90%以上の児童生徒が、今回の体験は災害時に役に立つと答え、また参加したいという回答がありました。

また、8月5日から6日に実施した「ふるさと教室」の活動で非常時体験と中央公民館に宿泊をしました。1日目は段ボールハウスを作り、その中に泊まる。また、避難訓練・消防訓練として煙体験・消火体験を行いました。さらに、救命救急として、心肺蘇生法とAEDを使用した救命救急を実施しました。2日目は自然災害科学実験としてペットボトルを利用して液状化現象の仕組みを体験しております。以上です。

海野市長： ただいま説明がありましたが、皆さんから何かありますか。

佐藤委員： 9月から10月にかけて私も木崎地区と五台地区の運動会や体育祭などの地域の行事に参加させていただきました。その中でも五台地区のまちづくり委員会の会長さんが開会式の中で、「この地域を通して人間づくりをしていく、まちづくりをしていくことが行われてきて、これが私たちの誇りである」という挨拶をされていました。非常に感動しました。そのような組織がまだ残っている、場が残っているようなことは青少年だけにはとどまらず、特に那珂市では有効に機能していると感じました。

先ほどの話の補足ですが、この英語教育も先生だけでやるわけではなく、住谷委員さんからも話にありましたけれど、日本の文化に疎いというような人がいれば、学校において皆で指導していくような体制や意識づくりが必要で、先生だけで行うものでもないから遠慮せずにどんどんやってほしいと思っています。青少年育成についてもそれと同じで、地域で意識や組織や場が残っていることを使って、皆で育てていくということをこれからも続けていければと思っています。

海野市長： 他にはございますか。

中澤委員： いま地域で子どもを育てるということで、子ども会の活動や自治会での活動もあると思いますけど、特に子ども会に参加しない家庭が増えているということも危惧することかなと思います。共働きが多く、子ども会に入ったら役員にならなければならない、役員を引き受けられないから子ども会に入らないという話を聞いたことがあります。しかし、地域で子どもを育てるということはとても大切なことで、周りの子どもを見て、どこどこの子もだよと分かることが何年か前までは当たり前でした。私も木崎小に勤めていたときにおいて、おばあちゃんがどここの孫だと分かっていたもので、やはり地域で子どもを育てるということは非常に大切だと思っています。小学校においても子ども会活動がだんだん下火になっていくことがネックだと思っています。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 私の地域には新しく来られた方が何人かおりまして、自治会に入って一緒に頑張ろうということになるのですが、煩わしいということで入ってくれません。いったん入った人も役が嫌だと辞めてしまった人もいます。そういう中で、子どもを育てるということは親も一緒に育てないといけないのかなと思います。那珂市のような文化と

風土なところでは、都会的でもなく田舎というわけでもなく、そういう狭間の中で難しい印象があります。例えば、お祭りもどんどん無くなってきていますが、お祭りは基本的に人を結びつけるものなので、それが無くなってしまうと地域の結びつきも無くなってしまいます。別な方策を考えていかないと、子どもたちも上手くいかないのかな、回っていかないのかなという気がしています。良い知恵は無いと思いますが、大変な努力が必要な気がします。

海野市長： ありがとうございます。他にはございますか。

小笠原委員： 地域の繋がりが薄くなっていく中で、学校の役割が重要になってくると感じています。学校なら皆必ず行きますので、その中で先生たちの負担を増やさずに同時に地域の繋がりを生むためには、就学児の親ではない地域の人たちがいかに学校に深く関わっていくかに尽きると思います。その点においては、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）という活動がこれから発達していくことで、コミュニティ・スクールをきっかけに地域の繋がりを発掘できると思っています。

海野市長： 子ども会に入らないということですが、PTA活動はいまどうなっていますか。

根本生涯学習課長： PTA活動は活発にやっている方と差があります。余談になってしまいましたが、価値観の違いがありまして、PTAというと、子育ては毎日毎日が精一杯で、子育ての良さもある程度親が成熟してある程度の年代にならないと分からないというものもあると思いますけれど、その場しのぎで精一杯で、PTA活動に参加できないというものもあると思います。

海野市長： 奉仕活動の参加率はどうなっていますか。

根本生涯学習課長： 分からないです。

住谷委員： 一ついいですか。私が組合長をやっていたときに粗大ごみが年3回あったのですが、これがまた大変で、朝5時半に起きて、PTA役員の人に来て、PTA役員になると自動的に早朝の粗大ごみの係になってしまうのですよと言っていました。それは変だと、そういうのも原因ではないかという気がしますし、PTA役員やりたくない、PTA役員が大変だ、と思えてしまいます。その辺は気をつけないといけないのかなと思いました。余計な話ですみません。

海野市長： 学校を中心に活動するとなると、P T Aが一番有効と思いますので、そういう場で子ども会に加入してくださいとでも言えば、多少効き目があるのかなと思います。

他にはございますか。

佐藤委員： 確かに子ども会に入りたくないという動きは感じますが、守っていかうという人たちもいます。非常に熱心に活動している。そういうことを見ていると、自分のできる何かは手助けしてやりたいと、ここ2、3年は色々と首を突っ込むようになりました。確かにやりたくないという気持ちも分かるのですが、先ほどのまちづくりの会長が、私たちの誇りだ、と開会式の皆の前で発言がされているように、そのような場があることが私はまだまだ捨てたものじゃないと思いました。

海野市長： 色々なご意見ありがとうございました。

これから那珂市に限らず社会貢献の必要性は高まっていくと思います。社会貢献のできる、また、未来を背負って立つ子どもたちの育成に尽力していただきたいと思います。

その他教育大綱の進捗状況について何かございますか。

(なし)

海野市長： 何もなければ、続きまして、次第3協議事項の(2)のその他になります。私の方から1件ございまして、学校給食についてですが、昨年度から幾度か学校給食に異物が混入するという事案が発生しました。子どもたちの「健やかな体」を育成するために、学校給食が担う役割は非常に大きいと思っておりますが、その学校給食の安全に疑問を抱かれるような事案が起こったことは残念に思います。

これらの事案後、教育委員会においては、学校給食の安全を守るためのマニュアルの作成やチェック体制の整備・強化を図っていますが、引き続き万全の態勢で学校給食の安全確保をお願いしたい。

学校給食の安全を確保することは必要不可欠です。今後、同様の事案が発生しないよう細心の注意を払って学校給食を提供していくようお願いします。

このことについて、委員の皆様からご意見はございますか。

住谷委員： 今年給食センターへ教育委員で行かせていただきましたが、このような問題は人間である以上間違いはあるので、あまり神経質にならず淡々と行い、隠すと問題になるので正々堂々こういうところ

で間違いました、ごめんなさいと対応すればいいと思います。あまりにも神経質になっても現場の調理員さんが委縮して十分な働きができないので、調理員の方々には感謝をしながら淡々とやっていくしかないという印象を持ちました。

中澤委員： 給食は食の安全ということで非常に大切なことだと思います。しかし、異物混入はどうしても人間のやることでちょっとしたミスで入ってしまった。ただ、現場になりますと隠しちゃうというところもあるかもしれません。しかし、そこはオープンにこういうことがありましたと謝罪し、あるいは学校の現場で給食を配給する場合においても担任の先生がよく見て、入っていた場合これが入っているよ、これは注意しなよというような指導でもいいのかなとも思います。給食にこんなのが入っていました、とオープンに淡々と進めていくしかないかなと思います。どうしても人間がやるものですから、そこはミスしてしまうのもあると思うのですよね。例えば、給食の野菜をよく洗わずに、虫がついている。虫が付いていたからといっても、担任の先生から農薬が入っていた場合は、虫がいないよ、農薬を使われていない安全な野菜だよ、と一言があれば子どもたちの受け方がまた違うと思います。そういう風にやっていけばいいかなと思います。

小笠原委員： 子どもたちの年齢にもよると思いますが、大人が用意したものを無条件に自分で口にするだけでなく、子どもたちも自分の口に入るものに対して自分なりにできる範囲の責任と注意力を育てていければと思っています。以上です。

海野市長： よく探せということですね。

小笠原委員： 入っていたら気をつけるということです。これから世界に出て、未開拓地で活躍する子どもたちもいますから、いかに日本が安全であるかが分かると思います。

海野市長： 他にはございますか。

佐藤委員： 私も給食センターを訪問させていただいたときに、試食をさせていただき大変おいしくいただきました。給食というのは、子どもたちにとって大変楽しみなもので、繰り返し事故や事件が起きるようなことは防止してもらいたいと強く思っています。働く人たちは子どもたちにとって給食は大きな楽しみを与えているのだから仕事に自信と誇りを持っていただきたいとセンター長さんをお願いし、職

員の人たちにもよろしくと伝えてきました。そういうことで子どもたちのためにも頑張ってもらいたいなと思っています。

海野市長： 他にはございますか。虫あたりは報告義務無くなったのかな。

高橋学校教育課長： 無いわけではないです。

海野市長： 金属片とかプラスチックについては私も随分お叱りを受けたのですけれど、あまり委縮するようだと職員の方が緊張してどうしたらいいのかとなってしまうので、淡々と対応するしかないと思います。

他の自治体の事例も聞いているのですが、虫とか髪とかは日常茶飯事で、切断物等の異物が給食に入っていたという事例もあります。いずれにしても注意してやっていくよう努めていこうと思っています。

住谷委員： 那珂市での異物混入の記事は随分大きい気がします。友人が何人かいるのですが、そのようなことがあっても記事にならない、挙げてないところが結構あります。そういう点では那珂市は極めてフェアだなと思います。

海野市長： 包み隠さずという方針でやっております。

佐藤委員： 無いに越したことはない。

海野市長： 指差し確認とかマニュアルも作ったのだよね。マニュアルは教育委員さんにお見せしているのだよね。

会沢教育部長： はい。

海野市長： その他何かございますか。

秋山教育長： 先ほど英語の方で説明ありましたが、小学校3年生から必修化になり、5年生から教科ということで授業時数がかなり増えていくということになってきます。そうしますと、時間をどうやって取っていくかということが問題になっていきます。文科省の中で学校教育の規則を改正して、いままでは特別な場合に認めていたものを、今度は各自治体で必要とあれば授業をやってもいいという改正がありましたので、これはそういうの見込んでの改正かなと感じます。そうすると、実際に32年度からそういう状況になると、我々としても早めに土曜日の授業を実施するのか、

又は平日で時間を作るのかということになります。それから、文科省の専門委員会で15分授業を何日間か取ってという話もあります。そういうことを考えていく必要がありますと、やはり土曜授業が必要になってくるのかなと思います。いままでよりも必ず1時間は増やさないといけないということになりますので、どうしたらいいかと校長会とも検討して、こういう方向で私の方からもお話をしています。まずはやってみましょうと。来年度施行ということで年に2回、土曜の授業を実施して、普通ならば土曜出た場合は月曜が代休となりますが、月曜は休まずに授業となります。そういう形で試行期間として、29年度年2日やろうと校長会とも話しました。また、30年度には年3回ということを実際に実施しようということになります。実施の内容としてはそのまま授業をやるのか、それとも学校行事等を振り替えてそこへ持っていくのか、色々工夫はあるかだと思います。やる時には各学園で統一してほしいです。そうしないと、行事等に使う場合はバラバラになってしまうとできませんので統一ということをお願いしようと考えております。32年度には1か月に4、5日増え、時間的には4時間必要になってきます。そういう状況を見通して土曜の授業を始めてみましょうと校長会でも話しました。英語の授業が増えることによって、英語ばかりが土曜日にやるのではなく、どのぐらい週の中に英語が入っていくのか、退けられたものを土曜日の授業でやっていくということになるとは思いますけれど、そのときに色々問題が出てきます。給食をどうするのか、お弁当にするのか、スクールバスが1日増えるとどうなるのか等色々問題は出てくるかと思いますが、これから検討していく必要があるのかなと思います。今後は1か月に1度は土曜日授業となっていくと思いますので、来年度から施行と考えております。そういうことについてこれから父兄の方に連絡しなければならないですけれども、なかなか子どもたちも大変体力を要することになるのかなと思います。スポーツ少年団等の社会教育が少しずつ浸透していています。子どもたちにきちんとした授業時間の位置付けをして、大会があるので休みますということにならないように管理規則等の改正を含めて少しずつ32年度までには完全な形にしていく必要があると将来を見通した形で進めたいと思っています。以上です。

海野市長：　いま教育長からお話しありましたが、ご意見ございますか。

中澤委員：　いま現在の子どもたちは時数的なもので考えてみますと、月曜から金曜まで6時間だと30コマですよね。いま実際の教科は29コ

マ、そして今度はそれに1コマ増えるのです。月曜から金曜まで6時間の授業をやれないわけではないですけど、先生たちの研修ができなくなってしまう。ですから1コマくらい空けておかないと、学校が回らなくなってしまう。そういう状況だと、どうしても土曜日の授業を考えないとこれからは学校が回らないと思います。是非ともそういう風な方向にいま現在行かざるをえないのかなと思います。7時間授業を組む学校もあるかもしれないですけど、小学校の段階では7時間で組むというのは異常かなと思いますので、土曜日の授業を行わざるをえないのかなと思いました。

海野市長： 他にはございますか。

住谷委員： 平成12年の「ゆとりある教育」ということで、文部省が中心になって土曜日授業を無くしたわけですね。無くすときもかなり保護者からも大変だ、土曜日いったい何をすればいいのかと言われました。文科省は世界教育を充実させ手当をすると仰ってましたが、あの時点で無理のあったことです。ここに来て英語教育絡みで縮まったものを延ばすことは大変なことになると思います。先生の健康面や家庭の意識の変化などに大きな影響あると思いますが、土曜日授業をやらざるをえないと思います。教科書も随分厚くなって量も増えていますし、金曜までの授業で消化できなくなっていくと思います。色々な面で直せば直すほど歪みが出てきてしまうと思いますが、私は土曜授業をやらざるをえない現状かなと思います。

海野市長： 他にはご意見ございますか。

秋山教育長： できるだけ校長会等で進めていければなと思います。

海野市長： 他の自治体で実施している夏休みや冬休みで行うのは厳しいですかね。

秋山教育長： 夏休みはきちんと取って子どもたちも先生もリフレッシュして、しっかりと授業に臨んでもらいたいと思いますので、あまり休みを削りたくないです。それよりも授業時間の中でしっかりとした授業をやっていたきたいです。

海野市長： 分かりました。いまのご意見を参考に進めていきたいと思います。それでは、土曜授業については、今後も教育委員会において調査研究を続けていただきたいと思います。その他何かございますか。

小笠原委員： 先ほどの土曜授業に関係あるところもあるのですが、教育委員になって学校訪問させていただいています。PTAの奉仕作業も参加して、とにかく子どもが少ないのに先生たちの負担がとても大きいと感じました。特に充実した授業をしていかないといけないのに、それ以外に時間を取られることが多いことがあります。例えば、教務以外の整備作業や修繕作業に先生たちが細やかに対応していて、校長先生自身も率先してやらなければならない、他の先生たちに負担とならないようにとあちこちの学校で現実問題となっている気がしました。私たちが子どもの頃は用務員さんがいらして、草取りやグラウンド整備などをやっていただいた印象がありますが、なかなか最近では難しいのかなと、先生たちが一生懸命やっていただいている中で、更に教科の充実、研修と考えますとそれらに時間を取られるのはもったいない気がしますと思いました。そこについては那珂市としてはどうですか。

海野市長： 文科省から何か年間計画を立てるとかそこまでやらなくちゃいけないとか下りてくるのですか。

小笠原委員： 奉仕作業でも取りきれないくらいの草が生えていて、これも先生たちがやるとなると大変だと思いました。

住谷委員： グラウンド整備とか立木の処理とか多いです。ある中学校に行ったら、とにかく校長先生や教頭先生がそれに専従していることがあります。他の先生も一緒にやらざるをえない現状だと思います。

海野市長： 奉仕作業だけじゃ手の届かないところもある。

小笠原委員： 無理だと思います。

海野市長： それは予算をつければできる話だよね。

学校教育課長： 除草作業は毎年度予算を組んでいます。いま来年度予算の実施計画のヒアリングをやっているのですが、用務員さんの配置については委員会からも要望しているところです。全体的な財政事情がありまして、なかなか配置に至っていないのが現状です。一番学校の校長先生や教頭先生を含め、本来生徒の方を向いていただきたい時間が阻害されるのを懸念しておりまして、施設管理については、特に今年も除草作業については予算を調整しています。授業を含めて生徒の方を向けるような先生方の体制を取れるような

予算を調整していきたいと思っています。

海野市長： お話にも出ましたが、2メートルだと落ちると死ぬ可能性があります。例えば、2メートル以上の脚立を使う場合は、学校の先生も誤って落ちると死ぬ可能性もあるのでご配慮していただきたいと思います。

高橋学校教育課長： どこの学校も通常の担任の先生ができないので、小中学校とも校長先生や教頭先生がやっている現状は重々承知しています。

海野市長： 特に危険な部分をご配慮お願いします。その他何かございますか。

中澤委員： 先ほど小笠原委員の仰っていた修繕というのも大きな仕事です。子どもたちの安全を考えた場合、例えば、トイレの扉が壊れた場合、トイレが使えなくなった場合、蛇口が使えなくなった場合等で早急に対応しなければいけない。こういう場合において、何かやっていただけの人たまにいるというのは、非常に学校としては仕事が回り、子どもたちへの安全の配慮もできるかなと思います。確かに6月、7月にたくさん草が生える時期に用務員さんがいれば助かるなと思いますけれど、それ以外にも修繕的な面、環境的な面でも見てくれる人がいると学校側でも助かるのかなと思っています。

海野市長： 他にはございますか。

佐藤委員： 学校訪問させていただきますと、小学校では出張の先生が多いです。なかなかそれに代替する教員を見つけて体制を組むのは大変だなと感じました。先ほど特別支援の指導員の話がありましたが、25、6人ほどを対応されているということでしたけれど、特別支援の内容は一人一人様々で複雑で大変だなと感じました。特別支援教育は大きな問題だと感じました。

海野市長： ご意見ありがとうございました。今回意見交換できたことについても、今後の那珂市の教育行政に活かしていければと思います。

最後になりますが、那珂市教育大綱に基づき、那珂市の教育行政が進められていくことになりますが、この総合教育会議の場におきまして、大綱の進捗状況等を検証しながら、那珂市の教育の更なる充実に向けて、委員の皆様と連携協力していければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、以上で、本日の協議事項は終了いたしました。進行へのご協力、誠にありがとうございました。それでは進行を事務局に

お戻しします。

川田総務課長： 活発なご協議、貴重なご意見ありがとうございました。
続きまして、次第4の連絡事項になります。事務局からお願いします。

石井総務G長： 今後の会議の開催についてですが、すぐ開催するという予定はございません。また懸案事項等が出た場合はその都度開催の通知を差し上げて、開催したいと考えております。その際には、ご協力をお願いしたいと思います。以上でございます。

川田総務課長： その他市長含めて委員の皆様から何かありますか。

(なし)

川田総務課長： それでは、以上をもちまして平成28年度第1回那珂市総合教育会議を閉会といたします。
慎重なご協議ありがとうございました。